

## 2030 年 CO2 削減目標達成に取り組む日本の鉄鋼業

大手高炉メーカーはそろって高炉を休止して、大型電気炉操業への設備投資・操業アプローチに舵を切る

日本は 2050 年カーボンニュートラルを目指し、2030 年までに温室効果ガスを 2013 年比で 46% 削減し、

さらに 50% の高みに向けて挑戦を続けることを表明しています

新しい掲載記事ありませんが、日本の鉄鋼業は 2030 年 CO2 削減目標達成のため、

大手高炉メーカーはそろって高炉を休止して、大型電気炉操業への設備投資・操業アプローチに舵を切る。

### 1. JFEHD 福山の高炉 1 基を完全休止 倉敷は電炉転換、生産スリム化 2025.5.8.

時事通信：2025 年 05 月 08 日 17 時 49 分配信：<https://www.jiji.com/jc/article?k=2025050800915&g=eco>

国内の粗鋼生産能力は 24 年度の年 2600 万トンから 27 年度に 2100 万トンに減らす。

同製鉄所倉敷地区（岡山県）の第 2 高炉も世界最大規模の電炉への転換のため

28 年度に完全休止し、生産体制は高炉 7 基から高炉 5 基と電炉 1 基体制になる。

JFE ホールディングス（HD）は 4 月 8 日、傘下の JFE スチール西日本製鉄所福山地区（広島県）で稼働している 3 基の高炉のうち 1 基を 2027 年度に完全休止すると発表した。過剰な国内生産設備のスリム化を進め、経営資源を脱炭素や海外事業などの成長分野へ振り向けるのが狙い。



JFE ホールディングス（HD）傘下の JFE スチール 西日本製鉄所福山地区の第 4 高炉（JFEHD 提供）

### ■ JFE、倉敷に電炉導入決定 高炉を転換、28 年度生産開始 2025.4.10.

時事通信：<https://www.jiji.com/jc/article?k=2025041000528&g=eco>

JFE ホールディングス傘下の JFE スチールは 10 日、西日本製鉄所倉敷地区（岡山県倉敷市）で、3 基の高炉のうち 1 基を世界最大規模の電炉に転換する決定をしたと発表した。

2028 年度に生産を開始し、粗鋼生産能力は年間 200 万トン程度を見込む。

高炉に比べて二酸化炭素（CO2）排出量が少ない電炉の導入で、事業の脱炭素化を進める。

国内の粗鋼生産能力は 24 年度の年 2600 万トンから 27 年度に 2100 万トンに減らす。

同製鉄所倉敷地区（岡山県）の第 2 高炉も世界最大規模の電炉への転換のため 28 年度に完全休止し、生産体制は高炉 7 基から高炉 5 基と電炉 1 基体制になる。

同日発表した 27 年度までの中期経営計画に盛り込んだ。

福山地区で現在稼働しているのは第 3 ～ 5 高炉の 3 基で、このうち第 4 高炉を休止する。

【動画速報】倉敷市・水島コンビナートの第 2 高炉 世界最大規模の電気炉に転換へ JFE スチール 【岡山】 (25/04/10 12:10)

YouTube：<https://www.youtube.com/watch?v=U2Xrbpnt0g>

### 2. 日本製鉄

#### ■ 濑戸内製鉄所製銅工場 電気炉粗鋼生産量 100 万トン達成 2025/03/28

NIPPON STEEL：[https://www.nipponsteel.com/works/setouchi/news/2025/20250328\\_100.html](https://www.nipponsteel.com/works/setouchi/news/2025/20250328_100.html)

日本製鉄株式会社 濑戸内製鉄所の広畠地区新設の電気炉で操業開始した 2022 年 10 月以降、2 年 4 力月の時を経て、2025 年 2 月 6 日に電気炉粗鋼生産量 100 万トンを達成。

製銅工場は、最新式電気炉で電磁鋼板用をはじめとした高純度で高品質な鋼を製造している工場です。

品質な鋼を製造している工場です。

#### ■ 「次世代電気炉の開発」/小型試験炉が完成 2025/3/17 05:00

小型の試験電気炉と共に 2025 年度内稼働の還元鉄を造る「試験シャフト炉」を組み合わせ、

水素による還元鉄の製造から電気炉溶解まで、一貫の鉄源生産プロセス確立を目指す

日本鉄鋼新聞：<https://www.japanmetaldaily.com/articles/-/234909>

大型電気炉での高級鋼製造技術の確立を狙い、日本製鉄が波崎研究開発センター（茨城県神栖市）構内に建設していた小型の試験電気炉が完成した。

炉容量は 1 チャージ（回）当たり 10 トンで、昨年 12 月から運用を開始した。

同センターでは還元鉄を造る「試験シャフト炉」の建設も進めており、2025 年度内に稼働させる。

両試験炉を組み合わせ、水素による還元鉄の製造から電気炉溶解まで、一貫の鉄源生産プロセス確立を目指す。...